

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501008		
法人名	天理教本輪西分教会		
事業所名	グループホーム タンポポ		
所在地	〒050-0051 室蘭市石川町202番地 (電話) 0143-50-2255		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年11月26日	評価確定日	平成21年12月28日

【情報提供票より】 (平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年10月17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算	16.1人

(2) 建物概要

建物構造	(木造平屋)造り		
	1階建ての	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	18,000円
敷金	有() 無()		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 無()	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年月9月1日現在)

利用者人数	18名	男性 0名	女性 18名
要介護1	4名	要介護2	8名
要介護3	5名	要介護4	0名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 87.1歳	最低 74歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本輪西ファミリークリニック 日鋼記念病院 三村病院 高橋歯科クリニック
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、地域の高齢者が幸せに楽しく、そして家族のように過ごすことのできる場所を作りたいとの開設者の思いにより、平成14年に室蘭市内では初めてとなるグループホームとして開設された。施設周辺は自然に囲まれ、リスや野鳥等の野生小動物も訪れ、利用者との触れ合いもある。近隣に住宅は少ないが、孤立することがないように、積極的に地域との交流を図っている。建物内は落ち着いた雰囲気のインテリアや色使いでまとめられており、利用者はゆったりとマイペースに過ごしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	課題である事業所の多機能性を活かした地域への支援については、行政との連携により地域住民向けの介護相談窓口の設置を計画している。また、災害対策における避難訓練の実施については、地域住民の協力のもと、夜間を想定した訓練を行っている。施設長、管理者は常に、評価の結果について真摯に受け止め、前向きに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価には職員全員が携わっておらず、グループホームに求められていることが、職員全員に伝わっていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族、地域住民、市職員が参加し、2ヶ月に1回、開催している。会議での意見を職員会議や会議録を回覧することを通して、職員に周知し、サービスの質の向上に活かしている。また、管理者は市の担当者と積極的に情報交換を行い、常にスムーズな連携体制の確保に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、広報誌と一人ひとりの利用者の近況報告を写真入りで家族に送付している。金銭管理の状況も毎月報告している。職員の異動についても随時報告している。家族会は年2~3回開催し、運営推進会議や電話、普段の来訪時も含め意見や要望等があれば、速やかに申し送り等にて職員へ周知を図り、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として町内会へ加入し、事業所主催の夏祭りには多くの地元住民が訪れている。また、小中学生やボランティアの訪問も積極的に受け入れ、地域から孤立することなく地元住民との交流を行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者個々の尊重と明るく楽しい暮らしを基本とした事業所独自の理念を作成し、玄関ホールやスタッフルームに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議や研修会で理念の理解、共有を図っている。また、日常のケアの方向性が理念に基づいているか、スタッフ全員が理念カードを携帯し、常に確認をしながらケアを提供している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として町内会へ加入し、事業所主催の夏祭りには多くの住民が訪れている。また、小中学生やボランティアの訪問も積極的に受け入れ、地域から孤立することなく地元の人々との交流を行っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には職員全員が携わっておらず、グループホームに求められていることが、職員全員に伝わっていない。	○	管理者や担当者は、自己評価と外部評価の実施する意義を再度確認するとともに、職員全員により定期的の実施し、評価を活かした事業所のサービスの質の確保、向上への取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、地域住民、町職員が参加し、2ヶ月に1回、開催している。会議での意見を職員会議や会議録の回覧を通して、職員に周知し、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市の担当者と積極的な情報交換を行い、常にスムーズな連携体制の確保に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、広報誌と一人ひとりの利用者の近況報告を写真入りで家族に送付している。また、金銭管理の状況についても毎月報告をしているとともに、職員の異動については、随時報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年2～3回開催し、運営推進会議や電話、普段の来訪時も含め意見や要望等があれば、速やかに申し送り等にて職員へ周知を図り、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限となるよう努力をしている。異動する場合は、十分な検討や利用者への説明を行い、利用者へのダメージをできるだけ少なくするよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会には、経験に応じて職員は計画的積極的に参加している。また、参加した職員による報告会も行っている。新人研修をはじめとする事業所内研修も計画的に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数のグループホームの協議会、連絡会に加入し、そこでの研修会には積極的に職員が参加しており、同業者と交流する機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には見学の機会を設け、希望があれば体験利用も行い、利用者が事業所の雰囲気に徐々に馴染んでからサービスが利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は職員と一緒に食事の支度や後片付け、掃除の手伝いをするなど、支えあいながら過ごす工夫がみられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取り調査票を活用し、利用者のこれまでの生活習慣や好みを把握し、職員間での共有化を図り、現在の生活に活かす支援方法を常に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見や希望を基にアセスメントを行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族、職員による十分な検討のもと、定期的に見直しを行っている。また、利用者に変化があった場合は、現状に即した計画変更を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望や必要に応じて通院や買い物、ドライブ等の外出支援を行っている。また、行政との連携により地域住民向けの介護相談窓口の設置を計画している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携もスムーズで、往診の体制も確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	できるだけ早い段階から、家族とも話し合い、マニュアルや方針を整備している。また、医療機関との連携体制も確保し、家族の希望のもと、実際に終末期ケアを実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日ごろから、個人の尊厳やプライバシーを尊重した言葉かけや対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴などについて、一人ひとりの利用者のペースや時間帯など希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、食事の準備や後片付けを利用者とともにに行い、同じテーブルを囲み、同じメニューと一緒に食べ食事が楽しいものとなるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は、希望する日、時間帯に入浴をしている。また、介護が必要な利用者については、同性介護など介護者の希望にも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の生活歴や職歴を把握することに努めており、利用者ができることを考慮し、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、掃除、小動物への餌やり等の役割づくりに結び付けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望に応じて散歩や買い物、ドライブ等、可能な限り外出の機会を設けて利用者が戸外に出かける支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵はかけておらず、利用者が外出する際は、さりげなく声をかけたり一緒に出かける等、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、夜間想定での避難訓練を定期的に行っている。また、緊急時の避難場所の確保について地域の協力を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取、排泄の状況を毎日記録している。また、医師からの指示による食事制限についても職員同士で情報を共有化し、食事の提供を行っている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気のある家具を配置し、季節感のある装飾品や写真を飾るなど、利用者と一緒に考え居心地のいい空間づくりに取り組んでいる。不快な音や臭いは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や仏壇等を自由に持ち込んで、利用者それぞれの個性に合わせた、その人らしい居住空間をつかって居心地良く暮らせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。